

薬だつ知識

入院の際、忘れてはならない3点セットがあります。それは現在使用中の薬と薬の説明書、そしてお薬手帳です。

入院時には、病院の薬剤師などから使用中の薬や副作用、アレルギー歴などの確認を受けます。①使用中の薬による副作用の兆候があれば量や種類を変更する②使用中の薬と相性が悪い薬の使用は避ける③過去に副作用やアレルギーがあった薬と同一系統薬の使用を避ける―など、入院中の薬による害を最小限にとどめる必要があるからです。

ただ「薬の名前までは覚えていない」「以前副作用と言われたが何の薬かわからない」という人が多いです。また「取りあえず今は使っていない古い薬まで全部持って入院した」という方もいらっしゃるでしょう。

薬に関する情報を正しく伝えるためには「お薬手帳」が有効

副作用など病院に伝達

10. 入院前の準備



「おくすり整理そうだんバッグ」に自宅にある薬をまとめて、薬剤師に相談しよう

です。薬歴に加え、副作用があらわれた時期や症状を薬局や医療機関で記載してもらいます。

また、鹿児島県内の多くの薬局では「おくすり整理そうだんバッグ」を準備しています。自宅にある薬を入れて薬局を訪ねてください。使わずに残った薬が

整理でき、薬代の節約になることもあります。入院までの待機期間がある場合は、自宅の薬を整理する良い機会になります。そして日頃の備えとして「かかりつけ薬剤師」を持ちましょう。薬や健康に関する相談はもとより、入院の際は、薬歴、副

作用歴、アレルギー歴のほか、粉薬は苦手、薬との飲み合わせに注意すべき常用のサプリメントの名称など、必要な情報を、入院先の医療機関に伝えてもらうこともできます。(鹿児島県薬剤師会副会長・福岡龍一)

読者の皆さんから今後取り上げてほしいテーマを募集しています。はがきかファクス099(254)612911でお寄せください。〒890-8588 鹿児島市与次郎2-8-15 県薬剤師会「薬だつ知識」係まで。